令和５年度

研修集録

第３５号

秋田県立新屋高等学校

巻頭言　　変化に挑む　　校長　久慈　隆正

新学習指導要領２年目となりました。１０年前よりも少子高齢化、グローバル化が進むとともに価値観が多様化し、科学技術が日々絶え間なく速いスピードで進歩しております。また、気候変動によると思われる自然災害が頻発化、激甚化し、それに加え新型コロナウイルス感染症は、５月に５類感染症になったとはいえ、依然として感染防止対策を講じる必要があります。本校においては、今年度入学生から１学級減とデジタル探究コースの設置という大きな変化がありました。このような社会の大きな変化に柔軟に対応し、自分の人生を切り拓いていく生徒を育むために、教育活動の担い手である教員に求められる資質能力は、１０年前とは比較できないほど高く重要なものになっています。教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力が求められ、これらは常に学び続けることでしか得られないことも自明であります。

現在、学校が抱える教育課題は複雑化・多様化しています。また、一人一台タブレットの効果的な活用、「情報Ｉ」の共通テスト導入、観点別評価、指導と評価の一体化、ＳＤＧｓ、ＳＴＥＡＭ教育、探究活動の充実、令和の日本型教育など教育に求められるものは多くなっております。この難しい局面での教育目標の達成は、我々教職員の研修と意識改革抜きには考えられません。教員免許更新が廃止され、今年度から始まった、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励により、研修履歴が可視化されました。これにより、蓄積されてきた自らの学びを客観視できるとともに、今後伸ばしたい、又は、新たに能力開発をしたい分野・領域を見いだすことで、主体的・自律的な目標設定や自己のキャリア形成につながることが期待されます。さらには、教職員同士が教科・科目の垣根を越えて、情報を交換し、学び合い、助け合いながら教職員一人一人の力量を高め、学校の教育力を向上させていく必要があります。

そして、何より大切なのは日々の授業です。生徒を更に一段階伸ばすことができるような授業という意識で授業改善を行いながら、今後もできるだけ授業内で新しい教育課題に取り組んでゆく必要があります。

本校職員の研修成果のまとめである「研修集録　第３５号」の発刊にあたり、編纂していただいた企画研修部及び原稿を寄せていただいた先生方に感謝申し上げます。

結びになりますが、本研修集録を御高覧頂きました皆様方より、率直なご感想や、この集録から読み取ることができる課題について、御指摘、御教示いただけたましら、本校教職員、生徒にとって大変ありがたく存じます。

目　次

巻頭言　　校　　長　　久慈　隆正　…1

Ⅰ　高等学校中堅教諭等資質向上研修

地 歴 公 民　　鈴木　由香　…3

数　　学　　打矢　　景　…9

実践的指導力向上研修

保 健 体 育　　山﨑　　洵　…12

Ⅱ　授業改善推進プロジェクト

（1）前期校内研修

「互見授業」

企画研修部　　小玉　智里　…15

（2）後期校内研修

「生徒が「もっと勉強したい」と思うような授業改善

生徒の意欲を喚起する「しくみ」「しかけ」「しつけ」の工夫 」

企画研修部　　菅原真紀子　…20

Ⅲ　その他の校内研修

・きこえに関する職員研修　　保健教育相談部　豊嶋亜紀子　…24

・食物アレルギー研修会　　保健教育相談部　豊嶋亜紀子　…25

令和５年度中堅教諭等資質向上研修

選　択　研　修　報　告　書

所　属　校	新屋　高等学校	職・氏名	教諭　鈴木由香
研　修　先	ハラッパアフタースクール		
研修期間	令和　５　年　８　月　１６　日（水）～　令和　５　年　８　月　１８　日（金）		

１　研修の概要

（１）８月１６日（１日目）・・学童保育の企業理念などの講義、仕事の確認、夏休みの思い出新聞の作成の手伝い、声かけ

（２）８月１７日（２日目）・・午前中は人形劇に出演させる人形のキャラクター作りの手伝い。午後からは、文化創造館でダンサー（アオキッド）さんのダンス講座への引率に同行。

（３）８月１８日（３日目）・・人形劇のキャラクター作りの手伝い、子供たちの遊びや工作やCURDゲームなどに加わる。

２　研修の成果（今後への生かし方も含むこと）

今回の研修目的は①「遊ぶこと」を手段として、大人はどのような支援をすることが、人の「主体性」を育むのかを学ぶ②小学生とも円滑なコミュニケーションが図れるよう「対話力」を鍛えるであった。研修をしてみての学びを以下のように整理したい。

〇学校教育と違い、なにかをする「内容」も時間設定も自分で選択できるのが学童保育なので、その子の「自由」さというのをより強調する生活なのかと思っていた。しかし、スタッフの方の振る舞いを見ても自由の中にも、一定の秩序やルールがあるからこそ自由で子供たち自身も過ごしやすい空間がでてきているのだと感じた。具体的に述べると、大きな声でお話しをしていたり、乱暴な言葉を使ったり、人に危害を与えそうな落ち着かない遊びをしている子供が何人かいると、空間自体がざわざわしてくる。教室での話し合い活動も同じだと考える。最近はよく話し合い活動をさせるが、大きな声を出す人がいたり、何もやっていないグループがいたりすると、雰囲気も悪くなってくる。そこには自分だけではなく、周りの人がいるということを感じ、他の人たちの世界を崩してはいないかと考える客観的な力が必要だと思うし、そのような行動はいいのかだめなのか考えさせたり、方向付けしていくのは、大人からの対話なのだとも感じた。

〇今回のプロジェクトは、人形劇の登場人物をキャラクター設定をし、人形づくりをするたのだが、その作品をつくるまで、入念な準備をしていた。図書館に大型図書を借りにいったり、大きなかぶのミニチュアを作ったり、以前に作成した映画の上映会をして、演じることの楽しさを思い出してもらうなど。これは、授業でいうなら導入部分である。子供たちがどう導入していくと、心が動き、自然に主体的になっていけるのかの工夫は今後も継続して開発したいところだ。

〇最後は、遊びから展開する他者との学びのことである。子供たちがどんなときに、主体的で意欲的だったのか。それは、自分だけではなく、他者とコミニュケーションを交わしながら、自分だけでは作れなかった対象物、世界観を作ったときだった。１つのボードゲームをみんなでやる。いつもは、無口な子供が一生懸命ルールを説明してくれる。積み木の見立て遊びを小１から小６までセッションしながら「世界」をつくっていく。コミュニケーションがコミニュケーションをよび、偶発的に新しい生産物が創造される。この創造的な瞬間が子供たちは楽しいと思っているように見えた。いつも、グループ学習は、議論を戦わせるようなテーマばかり選んでいるが、自由に創造していくテーマを選んでもいいと思った。

〇小学校低学年の粘土作りに参加していたときに、子供たち同士の意見交換が活発だった。数日過ごしてみたわかったが、家にいるような居心地のいい空間をスタッフが作ってくれていて、心理的安全性を保つことに注意しているようだった。それとともに、今年の低学年はコロナの影響を感じるともスタッフの方が話してくれた。コロナで失敗やぶつかりを異様に避ける傾向もあるということで、どんどん作製や遊びに挑戦させたいと言っていた。業種は違えども、子供たちの将来身につけさせたい力をいつもスタッフで話し、プロジェクトを考えていらっしゃる熱意に心を打たれた。

令和５年度中堅教諭等資質向上研修

特　定　課　題　研　究　レ　ポ　ー　ト

所　属　校	新屋　　高等学校	職・氏名	教諭　鈴木由香
研 究 内 容	Ａ：本県の教育課題に関する研究 Ｃ：生徒指導に関する研究 Ｅ：道徳教育に関する研究 Ｇ：総合的な探究の時間に関する研究 Ｉ：その他		Ｂ：マネジメントに関する研究 Ｄ：教科指導に関する研究 Ｆ：特別活動に関する研究 Ｈ：特別支援教育に関する研究
研究テーマ	Ｇ　探究の時間の評価、ルーブリック作成に関する研究について		

１　研究の概要

①はじめに

今年度から本校はデジタル探究コースを設置し、一年生から起業体験プログラムや探究活動を行っている。そのために、新屋高校の学校目標や探究目標に対応した評価基準を作成する必要性がでてきた。今回、大阪大学主催の「高校教員のための探究学習指導セミナー」に8月、12月と参加し、ルーブリック作成について学び、実際に作成をした。

②探究学習の評価について

探究学習の評価は、ピア評価やポートフォリオなどがあるが、今回は以下の長所があるため、ルーブリックを採用したい。（ア）社会で求められる能力が変化しており、その能力をはかりやすいこと（イ）教科や学年を超えて実施する場合も、評価基準がそろっていることで客観性の高い評価ができること（ウ）大きな課題を処理しやすい課題に分割でき、タイミング良く生徒に詳細なフィードバックが可能になることである。（エ）生徒の短所よりも長所を明らかにできる、などが上げられる。

③新屋高校の到達目標と実際のルーブリック作成について

新屋高校では、SSCプロジェクト（SDGｓ×STEAM×Carrer)をおこなっており、予測困難な時代に必要な能力「論理的思考力」「提案力」「問題解決能力」の育成を目標としている。本校の生徒は、非認知スキルチェックテスト（EdｖPath)でも「責任ある意思決定」や「度胸」「自己肯定感」の項目が著しく弱い。そのため、３年間を通して、アントレプレナーシップ教育（起業家精神）を軸に上記の三つの能力を高める計画である。一年生では、起業体験プログラムと一般的な探究学習の取り組みがあるため、二つのパターンのルーブリックを作成した。（資料１と資料３）今回、生徒に実際評価をしてもらい分析したのは、起業体験プログラムのルーブリックである。（資料１）起業体験プログラムとは、１クラス１つの企業を起業し、製造から販売するまでのプログラムを9月から11月まで行った。

２　成果と課題

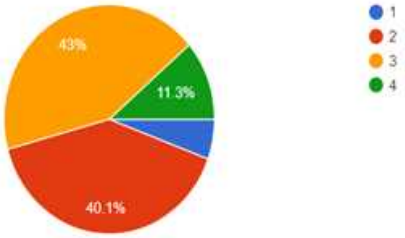
①成果

（ｉ）ルーブリック評価は、生徒の取り組み方、姿勢がよく分かる。

例えば、資料２の観点１【主体性、実行力】では、クラス単位でおこなった体験プログラムだったこともあり、意欲的でない生徒もいるだろうと予測したが、八合目（積極的に参加した）に47.2%もおり、頂上（常に積極的に参加し、さらに目標を立て続けることができた）が17.6%、つまり前向きに取り組んだ生徒は64%もいることが分かった。

（ⅱ）生徒自身がどのような能力を得たのか、どう自己評価しているのかわかりやすい。

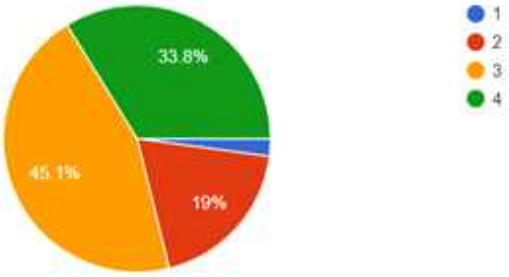
【課題発見・分析・計画力】
現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力。
（1:登山口　2:五合目　3:八合目　4:頂上）
142 件の回答



　それは、例えば【課題発見・分析・計画力】のところである。５合目を選んでいる生徒は、40.1%であり、課題を発見することができている。8合目を選んでいる生徒は、43%。課題を見つけ、さらに解決のための道筋をたて、アクションを起こしている生徒がこれほどいることに驚いた。頂上を選んでいる生徒は　11%、課題解決のために締め切り日から計画的に働く能力が問われると、数値がかなり下がることが本校の生徒の課題でもある。

（ⅲ）教員が隅々まで見ることができない部分をルーブリックで自己評価することで、より正確な評価になると考える。

【傾聴力、柔軟性】
相手の意見を丁寧に聞き、意見の違いや立場を理解する力。
（1:登山口　2:五合目　3:八合目　4:頂上）
142 件の回答



　例えば【傾聴力、柔軟性】の項目で、頂上（相手に疑問に思ったことは質問しあい、とことん話し合うことで互いに立場を理解できた）を選択している生徒が33.8%いる。教員から見ると、それほどとことん話し合った様子は見えなかったが、部署ごとに多くのコミュニケーションが交わされたと予測される。

②検討課題

（ⅰ）ほとんどの学校では、ルーブリック評価は、探究活動での評価で使用される。今回の起業体験プログラムのような体験学習のみを評価するルーブリックを作成している学校があまり見つからなかった。本校の生徒の実態と教育目標、探究活動目標を照らし合わせて作成したつもりだが、この評価観点だけでよかったのか、疑問が残る。よりブラッシュアップさせるためにも、探究委員等の複数の意見もいただきたい。

（ⅱ）今回は四つの評価区分であったが、三合目と五合目、頂上の違いを明確にするために、文章が少し長くなってしまったようにも思う。あまり長いと生徒が読むのを嫌がる可能性もあるため、観点を細分化し、項目を増やすことも検討したいと考えた。

参考講義　大阪大学「高校教員のための探究学習指導セミナー2023」8月26日、12月23日
参考文献『高校教員のための探究学習』佐藤浩章
　　『高等学校　教科と探究の新しい学習評価』学事出版
参考ルーブリック
大教大附属平の校舎（旧SGH指定校）口頭発表シート（2016年度版）
豊中高校発表評価ルーブリック
大手前高校（SSH)『令和３年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書』
神戸大学附属中等教育学校『令和３年度スパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書』

起業体験プログラムの振り返りルーブリック

資料１

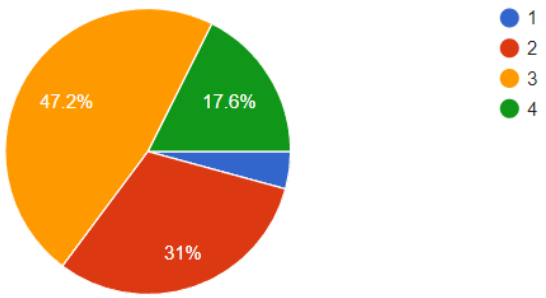
目標：模擬店ビジネスを行う株式会社を擬似的に設立・経営する体験等を通じ、課題に対して自ら学び・自ら考え・他者と協力しながら、粘り強く解決する力をみにつける。

【　到達目標　】		1（登山口）	2（五合目）	3（八合目）	4（頂上）
一歩前に踏み出し、失敗を恐れず粘り強く取り組む力	【主体性・実行力】目的を設定し、物事に進んで取り組む力	あまり目的が見つからず、積極的に参加しなかった。	目的を設定し、着実に行うことができた。	目的を設定し、常に積極的に参加することができた。	目的を設定し、常に積極的に参加することができた。自分の目的が達成されたあとも更に次の目的をもち進んで取り組んだ。
	【働きかける力】他人に働きかけ、巻き込む力	自分の意見やアイデアは出すことはなかった。	自らの意見やアイデアを出すことができた。	自らの意見やアイデアを出すときは、根拠を示し、協力をお願いした。	自らの意見やアイデアを出すときに根拠を示し、相手の反応を見ながら伝え、協力を得ることができた。
疑問を持ち、考え抜く力	【課題発見・分析・計画力】現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	起業体験プログラムに参加する際、とくに疑問や問題点（改善点）も見つからなかった。	起業体験プログラムに参加する際、自分なりに疑問や問題点（改善点）を見つけた。	起業体験プログラムに参加する際、自分なりに疑問や問題点（改善点）を見つけ、解決にむけた計画をたてることができた。	起業体験プログラムに参加する際、疑問や問題点に対する解決策を多角的に考え、解決のための計画を締め切りから逆算してたてることができた。
多様な人々とともに、目標に向け協力する力	【傾聴力、柔軟性】相手の意見を丁寧に聞き、意見の違いや立場を理解する力	相手の意見を理解しようとせず、自分の意見を突き通した。	相手の意見を理解しようと努力していた。	感情的にならず意見を出し合い、互いの立場を理解することができた。	相手の意見に対して疑問に思ったことは質問をしあい、とことん話し合って、互いの立場を理解することができた。
	【状況把握力】自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	人に迷惑をかける言動を行った。また、人に頼まれたことはあったが、引き受けなかった。	人に迷惑をかける言動は慎み、頼まれた仕事はいやな顔をせず引き受けた。	周囲の状況を観察し、困っていたり、大変そうな状況を助けることができた。	「ほうれんそう」（報告・連絡・相談）を意識し、メンバーの同意を得て物事をすすめることができた。

起業体験プログラム実施後のルーブリック自己評価結果　資料２

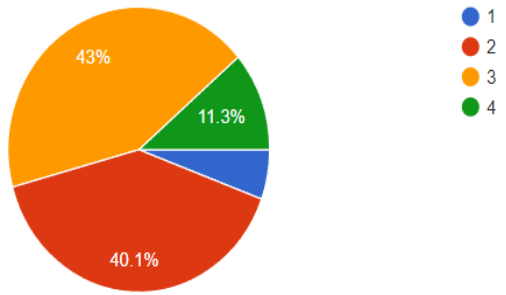
【主体性・実行力】
目的を設定し、物事に進んで取り組む力
（１:登山口　２:五合目　３:八合目　４:頂上）

142 件の回答



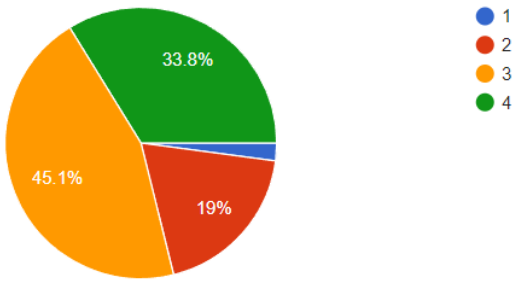
【課題発見・分析・計画力】
現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力。
（１:登山口　２:五合目　３:八合目　４:頂上）

142 件の回答



【傾聴力、柔軟性】
相手の意見を丁寧に聞き、意見の違いや立場を理解する力。
（１:登山口　２:五合目　３:八合目　４:頂上）

142 件の回答



資料３　探究用ルーブリック

目標：地域課題について調査し、自分ごととして解決策を提示できるようになる。

評価観点	Step1（1）	Ste p 2（5 合目）	Step3（8 合目）	Step4（頂上）
1　課題を設定する力	興味関心がある分野で「問い」が立てることができる。	研究対象を十分に理解しており「問い」を明確かつ検証可能なものに設定することができる。	先行研究をふまえて課題を検証し、より適切な課題に絞り込むことができる。	社会的に重要かつその解決が有益な課題を自らの課題として設定することができる。
2　課題解決のための 研究方法・分析・考察	課題に対して、研究の方法が的確である。 しかし、示された情報・データのみでは根拠として疑いの余地がある。	課題に対して、先行研究を理解し、可能な限り一次資料にあたって分析できる。 しかし、情報をみて誰しもが考えるようなことばかりで深さが感じられない。	課題に対して、先行研究を理解し、可能な限り一次資料にあたって分析できる。 しかし、その情報に対する疑問や反論の余地がある。	課題に対して、多角的な視点をもって分析し、解決のための方策を筋道立てて考えることができる。 その情報は非の打ち所のない考察がされている。
3　提案（アクションプラン）	有効なアクションプランが示されていない。	アクションプランが示されているが具体的でない。	アクションプランが具体的に示されているが、現実性がない。	アクションプランが具体的に示されており、そのプランに現実性がある。もしくはそのプランを実行している。
4　発表方法	発表用スライドを有効に使えている。	時間配分をふまえて研究の起承転結を適切に説明できる。	目的と結論に一貫性があり、聴者が納得できるように説明することができている。	発表内容を十分に自分自身で理解し、原稿に頼らず、自らの言葉を効果的に用いて説明できている。

令和５年度中堅教諭等資質向上研修

選　択　研　修　報　告　書

所　属　校	新屋　高等学校	職・氏名	教諭　打矢　景
研　修　先	有限会社　永澤弓具		
研 修 期 間	令和　５年　８月　８日（火）　～　令和　５年　８月１０日（木）		

１　研修の概要

今回の研修を受けるにあたって、以下の目的意識をもって３日間の研修に取り組んだ。

①部活動で普段使用している製品がどのように製作されているかを知り、正しい道具の扱い方を確認する。

②伝統工芸に携わる方々がどのような思いで製作活動に携わっているかを伺い、商品販売という観点で、製作活動を実際に体験してみる。

③接客を通して、顧客のニーズに応えるための技法や知識を整理する。

１日目　矢摺籐の巻替え

２日目　製品矢の筈入れ

３日目　マキワラ矢の名入れ

３日目　製品矢の毛引き（完成品）

２　研修の成果（今後への生かし方も含むこと）

今回の研修では、会社の方々に一から丁寧に御指導いただき、大変お世話になった。

弓道具の扱い方について、ある程度の知識はあったが、道具の材質や用途によって様々な小道具を用いて修理を行っていることが分かった。弓道は多くの道具を使う競技であり、細かく規定が決まっている。実際、道具の管理方法が競技の成績に直接関係してくる場面も多い。今回学んだ修理方法を生徒の前で実演することで、生徒に興味関心を持ってもらい、道具を含めた自己管理の重要性を指導していきたい。

３日間の工房での活動の中で、矢を製作・修理するにあたっての心構えも学んだ。お客様から預かった製品を修理することの責任の重さを意識して作業に取り組む緊張感は、日頃の学校現場では体験することはなかなかないことだと感じた。また、物価が上昇する中で、あえて昔ながらの製法にこだわった製作方法を貫く方針には、顧客との信頼関係を大切にしている会社の雰囲気を感じ取ることができた。プロとしての高い意識をもって商品やサービスを提供する姿勢は、教員として常に目指し続けなければならない心構えと重なる部分があると思う。今一度初心を思い出して、日々の生活を見直していきたい。

接客の場面では、来店した高校生に対応する場面があった。単に商品を売るだけでなく、笑顔を大切にすることで、「また店に来たい」と思ってもらうことが大切であると感じた。そのためにも、最近の話題や流行、情報に対して高いアンテナをめぐらすことが重要である。学校では生徒や保護者にも同様の気持ちで今後接していきたいと考えている。

令和５年度中堅教諭等資質向上研修

特　定　課　題　研　究　レ　ポ　ー　ト

所　属　校	新屋　　高等学校	職・氏名	教諭　　打　矢　　景
研 究 内 容	Ａ：本県の教育課題に関する研究 Ｂ：マネジメントに関する研究 Ｃ：生徒指導に関する研究 Ｄ：教科指導に関する研究 Ｅ：道徳教育に関する研究 Ｆ：特別活動に関する研究 Ｇ：総合的な探究の時間に関する研究 Ｈ：特別支援教育に関する研究 Ｉ：その他		
研究テーマ	授業における小テストの効果と生徒の意識について		

１　研究の概要

これまで生徒の学習成績を評価するにあたって、定期考査の得点を主な判断材料としてきたが、授業内容の理解度、知識の定着度をみるには十分とはいえないケースもあるように感じていた。

今年度、本校は定期考査の実施回数を３回（毎学期末に１回）に定めたことで、より緻密な成績評価のシステムづくりが求められることになり、数学科としては、全ての学年で小テストの実施を導入することにした。

１年間を通じて小テストを継続的に行い、本校生徒の実態に見合った小テストの計画、運営だったのかを検証、次年度以降の指導改善につなげていくことを研究課題とした。

本校１年生に対し、１１月末の第２回定期考査後にアンケートを実施、１４７名から回答を得た。
質問および回答結果は、以下のとおりである。

質問１：出題範囲について　　（小単元毎を目安に実施、７～１０題／１回）
質問２：出題量について　　（７～１０問／１回）
質問３：実施時間について　　（１０～１５分／１回）
質問４：実施頻度について　　（数学Ｉと数学Ａの小テストが同一週にはならないように調整）
質問５：問題難易度について　（教科書の練習問題と同一問題）
質問６：追試の時期について　（翌週に実施）
質問７：家庭学習時間について
質問８：学力向上について

	1 かなり 少ない/短い/簡単/早い/減った/役立っていない	2 やや 少ない/短い/簡単/早い/減った/役立っていない	3 ちょうどよい/変わらない/どちらでもない	4 やや 多い/長い/難しい/遅い/増えた/役立っている	5 かなり 多い/長い/難しい/遅い/増えた/役立っている
質問1	0.7%	0.7%	64.6%	19.7%	14.3%
質問2	2.1%	2.7%	73.3%	13.0%	8.9%
質問3	13.7%	47.9%	37.7%	0.7%	0.0%
質問4	0.0%	1.4%	40.1%	44.2%	14.3%
質問5	2.8%	6.3%	51.7%	23.8%	15.4%
質問6	6.1%	6.1%	83.7%	3.4%	0.7%
質問7	6.1%	2.7%	40.1%	36.7%	16.3%
質問8	8.2%	9.5%	11.6%	49.0%	21.8%

２　成果と課題

＜成果＞
質問１、２、６の回答結果から生徒の実態に即した小テストの運営はおおむねできていたと考えられる。質問５について、「問題がやや難しい」、「問題がかなり難しい」と感じた生徒は合計で４割近くいたが、教科書の練習問題と同一のものを試験本番に用意するだけでなく、小テストの試験範囲をまとめた対策プリントを配付する等の支援を行ってきたことで、難しいとは感じながらも自ら進んで復習しようとする意識の定着にはつなげることができたと思われる。
結果的には、質問７で「数学の家庭学習時間が増加した」と回答した生徒は５割以上、質問８で「数学の学力向上に役立った」と回答した生徒は７割以上となり、小テストをきっかけに数学の学習に意欲的に取り組む生徒は着実に増えているということも分かった。
また、小テストの採点には自動デジタル採点システム「百問繚乱」を活用したことで、短時間での採点、得点集計作業が実現でき、校務の負担軽減につなげることができた。

＜課題＞
質問３の実施時間については、「時間がやや短い」、「時間がかなり短い」と回答した生徒が６割に達している。「一度授業で解説し、復習もやってきているのだから、この位の時間設定で解答できるだろう」という教員側の見立てとは違う結果となった。次年度以降、留意していきたい。
また、質問４の実施頻度については、数学２科目のみならず他教科の小テストの実施タイミングも考慮する必要性もあるかもしれない。余裕を持って小テストの実施日を生徒に周知することで、復習をしてから小テストに臨ませる習慣の確立がさらにできるよう、日程の調整作業は入念に行う必要があることも分かった。

＜まとめ＞
年３回の定期考査という観点から始まった小テストの導入ではあったが、生徒も教員もしっかり順応してきているように感じている。定期考査で思うように得点が伸びない生徒にとっては小テストのような日々の努力の積み重ねが自らの成績に反映されることが励みとなる点も非常に大きい。
今後は学力保障という観点のみならず、成績上位層の生徒をより伸ばすための仕掛けづくりにも積極的に取り組んでいきたい。

新屋高等学校	氏名	山﨑　　洵

保健体育科（保健）　　学習指導案

1　単元名　　保健編　１単元　現代社会と健康　　（大修館書店「現代高等保健体育」）

2　単元の目標　　我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するために、一人ひとりが健康に関して深い認識を持ち、適切な意思決定と行動選択をすることが不可欠であることを理解できるようにする。

3　指導計画　　「現代社会と健康」課題学習　　総時数１０時間

（1）「ガイダンス」（１時間）
（2）「情報収集とスライド作成」　（５時間）

（3）「各班のスライドによる考察発表」（４時間）・・・精神疾患･生活習慣病（１時間）・・・**本時**

4　単元の評価規準

知識・技能（A）	思考・判断・表現（B）	主体的に学習に取り組む態度（C）
現代社会と健康について、健康を保持増進するために、自己の健康課題を深く認識し、選択するべき適切な行動について理解したことを言ったり、書き出したりしている。	現代社会と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	現代社会と健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。

5　本時の計画

(1)　本時のねらい
　各班の発表を聞き、自分の生活に対応した健康課題を見付けることができる。

(2)　本時の評価規準

知識・技能（A）	思考・判断・表現（B）	主体的に学習に取り組む態度（C）
	精神疾患や生活習慣病の予防について、事象や情報を整理して、自分の生活に関連した課題を発見している。	

(3)　展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法	教材等
導入 ５分	・本時の学習のねらいを確認する。 **目標「各班の発表から自分にとっての健康課題を見付けてみよう。」**	・本時の授業の見通しが持てるように強調させる。			教科書 クローム ブック 学習ノート
展開 ４０分	・各班のスライドによる発表を聞く。 ・各班の発表をGoogleFormsを用いて相互評価する。 ・教師によるリフレクションを聞き、知識を深める。 **＊上記活動を各班ごとに繰り返す。**	・評価を意識して発表を聞くように声かけを行う。 ･机間巡視を行いながら、単純な評価にならないよう呼びかけを行う。 ･具体的に「どこがどう良かったのか」を考えさせることを優先して声かけを行う。 ・ただのスライド作成で終わらないよう、ポイントを絞って課題を表面化できるよう説明を行う。 **発問例　「R1～R3にかけてなぜ自殺者が増えたか？」**	B	Google Formsによるリフレクション	教科書 クローム ブック 学習ノート
まとめ ５分	・本時の学習内容を整理し、自分の生活に対応した健康課題を個別で考え、発表する。 ・次時の指示を受ける。	・授業を通して、気付いた内容を実生活に生かせるようアドバイスをする。 ・次の学習内容を確認する。			教科書 クローム ブック 学習ノート

どんな法律を作ればがんは怖くないのか？
・喫煙者の吸う煙草の本数を決める法律
・程よく運動をする法律
・健康診断を受ける法律
など

精神疾患が増えた理由と
未然に防ぐ方法
本気で
挑戦

R5年 8月 8日 A－17 実践的指導力向上研修講座　学校名（新屋高等学校）　授業者名（山荷 洞）

協議の視点　「発信力」を身に付けさせるための手立てとして ねらいは適切であったか？（カリキュラム・マネジメントの視点から）

成果

- 生徒 指示が授業内でできている　伏藤
- 日々 しっかり 確認　えーす
- 使わせるように　佐
- 発信力を身に付ける過程としてBestな過程なのは　伏藤
- もうちょっと活動ほしい ↓ 由 ＋分活動できている 結び合わる　佐生
- 発信(表)としてはリアルタイム評価はモチベーション　伏藤
- 生徒の疑問に答える　えーす
- 評価で用いるICTの設定　佐
- 主体スライドの解説 ↓ 内容の保障
- 生徒の疑問に生かした発問・授業　佐
- 教科の横断（家庭科）　佐
- 即時評価　えーす
- プレゼンテーション形式（資料作成能力、発信力）　内
- ・生徒主体の授業 → 生徒をつくりあげる授業　佐
- ・生徒の問いから授業を展開 → 常時のフォローも忘れない　佐
- ICT活用（jamboard、Google form）　内
- その都度 行う ~~評価~~ リフレクション　佐
- 生徒の視点 現状に合わせた授業進行　内

課題

- 生徒の手元にある資料はあるか？　伏藤
- 教科横断的な授業展開（学習の手引き）　佐
- 答えのない考えをさせる時のゴール設定　佐
- 聞く方　えーす
- 生徒間評価 即時 〃　内

改善策

- 科間で『良い連携』の強化　内容の重複＋学び直しの視点
- 相互評価の発表 → 聞く側への指導

企画研修部

令和５年度互見授業

１　目　　的　　教員同士が、教科の枠を超えて互いの授業を参観し、評価し合うことで、これからの授業を構想する上での新たな視点を得るとともに、今後の授業改善に役立てる。

２　実施期間　　８月２８日（月）～　９月８日（金）　１０日間

３　参観方法等

　１　最低２つ（専門教科と専門教科以外）を参観する

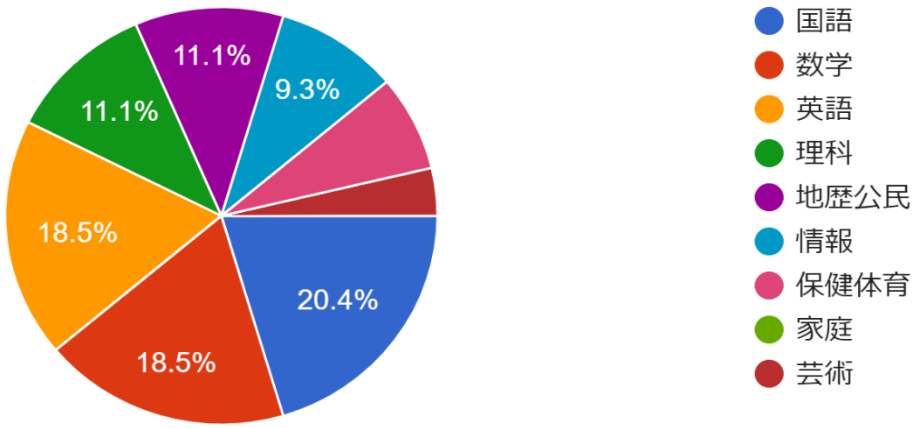
　２　授業参観の際には、授業参観シートを持参し、記入する（シートはセンターデスクに準備しておきます）

　３　授業参観シートの内容を Google フォームにも入力する（フォームに入力したあと、授業者にシートを渡す）

実施後の Google フォームの集計結果

１　参観した教科を選んでください。

54 件の回答



各科の回答件数

国語 11 件　地歴公民 6 件　数学 10 件　理科 6 件　保健体育 4 件

芸術 2 件　英語 10 件　情報 5 件

教科	科目	良かった点・工夫されていた点	課題点	その他
国語	現代の国語	板書と電子黒板を対応させ効果的に活用していた。 観点別に色分けされ視覚的に分かりやすい。 グループ活動で一生懸命話し合う姿があった。 教師の解説が明確で、発表者へのねぎらいの言葉があり暖かい雰囲気。		
	言語文化	授業の流れを教科連絡係が休み時間のうちに黒板に記入。 小テストを回収後、すぐ振り返りの時間を設け記憶の定着につなげていた。 授業のテンポのよさ…電子黒板でアニメーションを用いて説明、ノートに記入、音読するというサイクルが確立されている。	本時の目標が、用語だけの提示だったので、文章での記載がよいと思った。（～できる、～を覚える等）	
	論理国語	前時の振り返りも板書している。 生徒への声掛けが充実している。 説明に例を出しながら、分かりやすくしている。 生徒の解答に「わかりません」がない。 本文の読解だけでなく、自分たちの考えも丁寧に導きだしている。		
		生徒が思考する時間を保証している。生徒とのやりとりで思考を広げている。生徒に自己開示する発問がなされている。他グループの例や考えを共有して思考を深めている。生徒の意見を上手に活用して本時の目標を達成している。	発表の際、生徒が生徒に向かって発表するようにしたほうがいい。	英語の「論理表現」とのコラボができると面白いかも。
	国語 文学	答えられない生徒への工夫された発問。	リアクションが薄い生徒たちへの対応。	
	古典探究	電子黒板と黒板をバランス良く併用。 生徒への問いかけ、積極的な回答が多く、活気のある授業だった。	教室の後ろだと声が小さくて聞き取りにくい。	教室全体に目が行き届いている。板書が見やすいく、ノートを取りやすい。
		生徒とのやりとりでテンポ良く授業が進んでいた。 単語の意味や文法事項の確認を織り交ぜながら、丁寧な読み取りをしていた。 無駄にクロムブックを開いている者は皆無で、全員が授業に集中していた。		
	現代文B	板書が大変見やすく、またきちんと色分けされていて何が重要かが一目で分かる。生徒のノートも自然とまとまると感じた。 大変明瞭な発声で、生徒が聞き取りやすい。 配付されているプリントが要点を押さえて簡潔に作られている。		自分のクラスの生徒が他教科でどんなふうに授業を受けているのかを見るのはとても新鮮だった。
	古典B	生徒が考える時間を十分に確保している点 解答の根拠を丁寧に確認している 今後の予告をきちんと伝えている	本時の目標の提示の仕方（文字化するなど）	
		音読の際、教師も声を出している。 電子黒板に漢文を表示。 教科書のコピーを配付しノートに貼ることで、時間短縮になっている。	書き下し文を生徒がネットで検索したものを表示し、書き写している。	
	歴史総合	電子黒板の活用（重要事項の確認、図及び本時の目標や問題提示など）が上手で、学習内容を理解させやすくしている点 中国とヨーロッパについて考えさせるだけでなく、日本まで広げて考えさせることで歴史を大局的に捉えさせようとしている点	生徒に思考させる時間をきちんと確保していたぶん、複数の意見を聞くことができると面白い	
	公共	指示が的確ですべての活動を生徒に行わせている。 Webを利用しディベートの流れとルールを電子黒板で確認したところは、ぜひ自分の教科にも活用してみたい。	ディベートとなれば100か0の立場で相手を論破していくことになるが、条件付きで賛成や反対の意見は消されてしまうので、生徒同士の話が進まなかったり深まらなかった場面も見られた。	常に時間設定されており、間延びしないところが良い。

公民	地歴	日本史B	臨機応変なところ 生徒に調べさせて気づかせる進め方	生徒が先生へ速やかに情報提供できるような人間性を育むこと	電子黒板の黒板枚数を増やせること
		世界史A	始めに、なぜいま関東大震災について考えなければいけないのか、教員側が熱意をもって話していた点。教科書を進めるだけではなく、生徒に何を残していくのかという着眼点があり、心をうたれた。 NHK教材をうまく活用して、生徒の興味をぐっと引き付けていた。日常的にメディアなどにアンテナをはって、教材化されているように思う。 50分、全て生徒が集中して取り組んでいた。 プリントの発問が3つだったが、解いていくと理解が深まるような発問だった。		
		探究社会	生徒の日常に即した事例が思考を促していた。 読解力を養うための資料の選択がよかった。	スプレットシートの情報量がやや多いような気がした。	
			授業の最初に、本字の目標と流れを説明　生徒は授業の見通しができる	パワーポイント使用時に接続に問題があり、時間のロスがあった(他の授業でも度々あるので点検が必要) 難解な語句は、解説を丁寧に行う必要がある	丁寧な授業で18歳成人にあたる生徒にとっては、身近な題材だった。また、話し合いをすことにより他の生徒の考え方も理科でき、今後の参考になったと思う
数学		数学Ⅰ	電子黒板(説明)、黒板(展開)を使って視覚的にはっきり提示して説明することでねらいが的確に伝わっていた、問題の量や与え方を考えて、タイミングをみてねらいを強調するところがよかった。		
			数多くの問題に触れさせるという観点から、平方完成のドリル4問を授業開始時にプリントでセルフチェックさせたのは良かったし、プリントの裏に解答があり、すぐに答え合わせしたい生徒のニーズに応えていた。 電子黒板では写真のトリミング機能を使って必要な部分だけを提示することができるので利用してみたい。	生徒の印象に残る発問の工夫ができたのではないか。	2次関数のグラフは、手順通りに、一回は一緒に書いてみないと分からないと思う。
			黒板と電子黒板の併用(説明は電子黒板、展開は黒板) チョークの色は3色がちょうどよい。 グループにすると指導が1回で複数の生徒にできる。	グループを作っているがやっていることは個人作業 グループを作るタイミングを変えれば効果があるのではないかと思った。	
		2年数学Ⅱ	デジタル教科書の使用→生徒にとって同じものが手元にある安心感 黒板のチョーク色使いがよかった(白、黄、オレンジ)	電子黒板は授業が進むと消えてしまうので、生徒がノートをとるのが大変。板書やプリント配付等、生徒がこの授業で何を学んだかを分かるものを残す工夫があればいいと思った。	
		C数学	電子黒板と板書の使い分け　生徒が使うプリントの内容　例題の活用		
		3年数学Ⅱ	一人ひとりよく見て、Chromebookを片付けさせるなど、授業をきちんと受ける姿勢を取らせていた。 生徒の顔をしっかり見て、理解しているか確認しながら授業が進んでいた。 日常生活での例を挙げ、生徒がイメージしやすいようにしていた。		普段見られない生徒の活躍を見ることができた。
			生徒の興味を引くような発問から授業を開始。 問題の中の語句の解説を行うことにより、疑問を持たずに解答できる。	語句の理解度は低い	生徒が熱心に授業に向かっていた(いつもは元気すぎるクラス)
		Ⅲ数学	内容が難しいので自由に周りと相談できる方式が良い。	進度を速くするのは難しそうだ。	
	生物基礎		スピード感、メリハリのある授業の進め方		
			電子黒板に表示される図などの配置、導入部分の内容が充実していた	目標を出すタイミングについて	
			教師の指示が明確で、生徒の活動にメリハリがあった。電子機器を効果的に活用していた。		

理科	生物	本時の目標が簡潔で、見通しを持ちやすい。 例を挙げながら、丁寧に前時の振り返りがなされていた。 生徒への発問を掘り下げながら、理解を深めていた。		
	物理基礎	本時の目標を生徒に記入させる 説明を最小限にし考える時間を与える 段階的にヒントを与え結論を導かせる	生徒のレベルに合った発問の仕方	
保健体育	2年体育	ゲームにでたり応援したりする場面でみんなきちんと授業に参加している。のびのびできるよう指導している。指示されなくても自分たちで動いている。	生徒たちなりの工夫かもしれないが、特に女子は周りの様子に合わせて自分だけ必死にならないようにしてるように見えた。	競技が選択できるので得意な方で活動できて良い。
	3年体育	生徒への指示が明確。声が大きく生徒に伝わる。	おおむねの生徒が運動能力が高い。結果、運動の苦手な生徒がグループに入りにくい雰囲気が少しある。	生徒の自主性を尊重している。生徒同士で話し合って授業が進めていけるよう誘導している点を参考にしたい。
	スポーツⅡ	ウォーミングアップの時間の指示などが明確だった。 運動が苦手な生徒も、得意な生徒がカバーするなどし、全員が楽しんで授業を受けている様子が素晴らしかった。		生徒との信頼関係が強く、普段からきちんと指導されていると感じた。
芸術	探究芸術	クロムブックを活用した課題配信、回答共有	各自のモチベーションを上げる題材の工夫	
		生徒各自が興味ある分野について探究活動に取り組んでいる。	個人の研究に対応した専門的な指導が求められる。	
英語	英語コミュニケーションⅠ	Warm-upでレッスンに関連する単語 を使ってQuestionを作り、生徒同士でやり取りさせるなど、本題に入るまでの流れがスムーズ ポイントを押さえた、見やすい板書 All English		新出単語や熟語を書く時間は授業外等で設けられているのかどうか知りたい
		常にペア学習 単語が分からない生徒にヒントを与え、英語嫌いを無くす工夫をしていた 電子黒板で教科書を投影し、今どこをやっているのか可視化し、黒板には大事なフレーズ、単語が残っていて使い分けされていた。 50分間、あますことなく、生徒の活動があった。		
		ゲーミフィケーションで生徒の意欲を引き出していた。 チャレンジャーやボランティアに対する声かけが適切。 全員がやるべきことを把握し、スムーズな進行だった。		ALTと授業者が素晴らしいバランスで授業進行していた。
		テンポが良く生徒が飽きない。 隣同士やグループでの会話形式の活動が多く、発問も英語で、生徒が授業時間の大半を英語で話したり、聞いたりしている(常に英語に触れている)。		
	論理・表現Ⅰ	説明が的確だった。	カメラやタイマーなどの機能を活用してもよいと思う。	
	コミュニケーション英語Ⅲ	(ALT) ゲーム形式で意欲喚起していた。	ゲーム形式のスピード感のためやむを得ないが、難しいクイズには解説があればよかった。	
		グループによるプレゼンの授業で、、発表者と聞き手が集中して主体的に活動していた。		
		ほとんどが生徒の言語活動。十分な準備時間が保証されており、生徒が上達を実感できる。生徒が自己開示できる発表活動。	アウトプット活動でどうしても生じてしまう個人やグループ間の時差に対応する工夫。	プレゼンの評価項目に「熱量」とあるのが面白い。「熱量」を感じる発表がたくさんあった。

	英語表現Ⅱ	入力できる仕様の予習プリントを配信。 プリントで読解ポイントを示している。 ペア学習で教え合える。 長文を短く区切り生徒が無理なく読解できる。		
情報	情報Ⅰ	課題が終わったら顔を上げてくださいという指示。コンピュータ室のPCを電子黒板代わりに使用し、生徒はその画面を確認しながらクロームブックで作業をしていた。		生徒は周りと協力して取り組んでいたが、おとなしい生徒がもしつまずいたらどうするのか？
		本時の目標をホワイトボード全体に大きく書いていた。 机間巡視の際、一人ひとりの作業状況を確認し、的確な指示を出していた。 生徒とのやりとりを通して、理解度を確認し、授業を進めていた。	全角と半角の違いでプログラムが動かないので、見分けが難しい。	生徒がとても集中して取り組んでいた。
		わかった生徒が移動して苦手な生徒に教えている 理解できていない生徒を1台のパソコンに集めて指導する	ネットワークに繋がらない時、どのように対処するか考えておかなければいけない。	
商業	ビジネス情報	生徒同士の学びあいがある。生徒の提出物をすぐチェックして返却していた。生徒一人一人の進度に合わせて各自が課題に取り組めるところが生徒の主体性につながっている。		生徒は、かなり高度な表計算ができるとわかり、自分の授業でも活用した課題を検討してみたい。

令和５年度校内研修実施要項

企画研修部

１　授業研究テーマ

生徒が「もっと勉強したい」と思うような授業改善 ～生徒の意欲を喚起する「しくみ」「しかけ」「しつけ」の工夫～

２　目　　的

本校生徒自身が学習への意欲を高められるような授業の「しくみ」「しかけ」「しつけ」を工夫し、授業改善を図る。

３　実施日時　　１月２６日（金）

授業参観（６校時）　　１４：２０～１５：１０
分科会　　１５：２０～１６：００
教務研修　　１６：１０～１６：４５

４　実施計画

（１）授業参観　　６校時授業担当者以外で授業参観を実施（実施しない学級の生徒は下校）
※指導案等は不要。

	科目	クラス	授業名	授業担当者	参観者　（◎：司会　○：記録、報告）	企画研修部写真担当	分科会会場
1	商業	２A	簿記	佐藤博之	◎佐藤誠　白沢　高橋典　黒澤 ○加賀谷　渡部　武田	神居正暢	２E
2	家庭	１B	家庭基礎Ⅰ	髙橋雅子	◎船木　三浦　高橋健　島内 ○打矢　鈴木　岸　齊藤	菅原真紀子	１E
3	英語	１A	英語コミュニケーションⅠ	杉田道子	◎大関　佐藤洋　阿部　佐々木　高崎 ○山﨑　佐藤雅　今泉　佐藤緑　青山	小玉智里	１D

（２）分科会

参観した授業ごとに授業者と参観者で分科会（研修会）を実施し、最後に全体で共有する。

① 授業担当者から〔１０分〕
授業の資料などをもとに授業展開について説明をする。

② 協議〔３０分〕
授業について意見交流を行う。
※赤青付箋記入したものをA3×2用紙に貼る（授業担当者に意見・感想をフィードバックするため）
※各分科会の記録係が協議内容についてA4にまとめ書面で報告する。
提出期限　令和６年２月１３日（月）

（３）教務研修

５　これからの校内研究授業のローテーションについて

実施年度	科　目
令和５年度	商　業　・　家　庭　・　英　語
令和６年度	芸　術　・　情　報　・　数　学
令和７年度	保健体育・国語・理科・地歴公民

６　注意事項

① 早く放課した生徒が部活動を行う場合は、各顧問の責任の下、事前に指導する等、安全に配慮し、かつうるさくしない内容で行うことは可。

② 2A、1A、1Bの生徒も授業研修終了後は速やかかつ静かに放課すること。

R5　校内授業研修会　協議記録

記録者名（　　山　　﨑　　洵　　）

授業者（　　杉　田　道　子　　）先生　授業名（　　英語コミュニケーションⅠ　　）

箇条書きで協議の内容を記入してください。

「良かった点」「取り入れたい点」は、授業者のどのような働きかけによって実現したか？

項目・具体例		効果的だった内容、自分の授業に取り入れたい点
しくみ 目的・目標・構成・ルール・雰囲気など		・「ゲーミフィケーション」で、楽しみながら英語力を高めていく。 ・教科書の内容を超えた質問を心がけていて、生徒から発信された意見を言語材料としている。 ・授業者の表情が明るく、生徒が生き生きと取り組んでいる様子が要所に見られた。
しかけ 道具・題材・問題・ワークシートなど		・KAHOOT!というアプリケーションを活用し、クイズ形式で教科書の内容を定着させていた。 ・シャドーウィングを活用し、発音やアウトプットスキルの調整を図っていた。(ALT に対して) ・不要な教師の発言が少なく、生徒の思考や活動の時間が多く確保されていた。
しつけ	**教え方** 専門知識･板書･声の調子・ティーチングスキルなど	教師側がとても明るく、生徒にその雰囲気が伝わっており、安心して授業に取り組んでいる印象を受けた。教科書等の内容理解はもちろんだが、生徒が楽しみながら規律をもって話し合いや答えを導き出せており、普段の授業における生徒との信頼構築と適切な学習指導が根付いていると感じた。
	支え方 場を作る・場を読む･介入する･ファシリテーションスキルなど	教師側の視野が広く、全体に目が行き届いており、つまづきを感じている生徒には即座に寄り添い「問い」を発して疑問をその場で解決するような関わり方をされていた。スローラーナーへのケアがなされていることを感じるとともに、生徒の満足げな表情が印象的だった。

「改善を要する点」

全体を通して素晴らしい授業で、特に改善する点がないように思えてしまった。あえて挙げるとすれば、今回の授業がアクティブで楽しい時間だからこそこの時間の前後の授業で単語や内容を教科書通りに学んでいく際に、生徒の中で退屈だと感じてしまう生徒もいるだろうという点である。協議会の際に、授業者の杉田先生から「良い TEACHER TALK 」の話があり、その中での「 TEACHER TALK IS ECONOMICAL AND EFFECTIVE 」の言葉が非常に印象に残った。教員側は静寂の時間を嫌う傾向があるように思う。授業が盛り上がっていないのでは？という自身の不安をかき消すためにあえて言葉を多く使いながら説明し、ついつい話しすぎてしまうが、それは裏を返せば生徒の大切な思考の時間を阻害してしまっているともとれる。今回の杉田先生の授業から、自分の授業を振り返って教師側のアプローチ方法を見つめ直す必要性を感じた。個人的な感想になるが、教員が生徒と関わる時間は授業時間が最も長い。だからこそ、授業の中でしっかりと規律を保ち生徒が安心して授業を受けることができれば、その先生への信頼につながり、それが生徒指導につながっていくのではないかと思う。生徒が言うことを聞く先生、それは授業がうまい先生だと思うし、逆も然りと思えば普段からの授業をおろそかにせず、毅然とした態度で時には寄り添いながら時には見守りながらともに学んでいく姿勢を貫いていきたいと思う。

R5　校内授業研修会　協議記録

記録者名（　　打　矢　　景　　）

授業者（　髙　橋　雅　子　）先生　授業名（　　家　庭　基　礎　　）

箇条書きで協議の内容を記入してください。

「良かった点」「取り入れたい点」は、授業者のどのような働きかけによって実現したか？

項目・具体例		効果的だった内容、自分の授業に取り入れたい点
しくみ 目的・目標・構成・ルール・雰囲気など		・本時の目標で「高齢者」を「幸齢者」と表現することで、マイナスイメージからの脱却を図っていた。授業のまとめでも触れており、本時を通してのテーマとして明確であった。 ・教師の問いかけに対する生徒の反応が早く、日頃から関係性を築けているように感じた。
しかけ 道具・題材・問題・ワークシートなど		・導入部分で芸能人の写真やイラスト、ウェブ記事の切り抜き、クイズ等を取り入れることで、難しく捉えがちな単元内容でも前向きに生徒が臨めるしかけづくりが散りばめられていた。 ・秋田県に関するデータを中心に、生徒が自分事として捉えるための教材準備がなされていた。
しつけ	**教え方** 専門知識・板書・声の調子・ティーチングスキルなど	・板書計画とワークシートの整合性が高く、生徒は自主的にシートへ必要事項を記入していた。 ・教師の声にメリハリがあり聞き取りやすく、指示や説明が丁寧であった。 ・授業後半には、アントレプレナーシップを意識したキーワードも出た。（ビジネスモデル）
	支え方 場を作る・場を読む・介入する・ファシリテーションスキルなど	・生徒の発言を教員がしっかり聞く姿勢、受け止める姿勢が随所に見られた。 ・生徒の感想に対して、前向きな声掛けやコメント、必要に応じた補足説明が見られ、ただの生徒の発表に終わるということはなかった。

「改善を要する点」

・電子黒板の使い方に関して、後部座席の見えづらい生徒への配慮は必要。（高さ・拡大の調整等）

・生徒が感想を発表する際の配慮がもっとあればよかった。（声量の問題、ＩＣＴ機器で感想を共有等）

R5　校内授業研修会　協議記録

記録者名（　　加賀谷　悟　　）

授業者（　佐　藤　博　之　）先生　　授業名（　簿　記　）

箇条書きで協議の内容を記入してください。

「良かった点」「取り入れたい点」は、授業者のどのような働きかけによって実現したか？

項目・具体例		効果的だった内容、自分の授業に取り入れたい点
しくみ 目的・目標・構成・ルール・雰囲気など		事前にプリントに記載された目標を変更させることで注目させていた。 グーグルフォームやグループワークを用いて授業を行っており、生徒の集中力が途切れない工夫があった。 解答を恐れずに発言する雰囲気作りができている。
しかけ 道具・題材・問題・ワークシートなど		電子黒板、クロムブック、黒板、プリント、教具とデジタルとアナログをうまく融合させて授業をしていた。 小切手や手形（偽物）を用意し、それを渡す際の封筒も用意することで証券の価値を高める工夫をしていた。 １億円の大きさと重さを体験させる段ボールを用意することでグループワークの活性化に繋げていた。 教具によって視覚に訴えたことで、数字嫌いの生徒も関心を持って授業に臨んでいた。
しつけ	**教え方** 専門知識･板書･声の調子・ティーチングスキルなど	生徒が体験したことのない内容だが、丁寧な説明をすることで定着させている。毎回行っているグーグルフォームによる確認テストも効果的だ。 黒板（重要箇所）と電子黒板（説明箇所）に記載する内容をしっかりと分けており、生徒も慣れている様子であった。 電子黒板のスライドとプリントがよく連携されており、時間をかけて教材研究されている。
	支え方 場を作る・場を読む･介入する･ファシリテーションスキルなど	生徒への声かけのタイミングが良く、その後のグループワークが順調に進んだ。 生徒の意見をうまく取り入れて板書をし、その後スライドで説明するなど生徒に自信を持たせる工夫をしていた。

「改善を要する点」

・仕訳についての説明後の質問の時間をとっても良いと思う。

・グループワークで時間の提示をしても良いのではないか。

・苦手なも教科に向かう生徒が暗い雰囲気を出して下を向いていた。せっかく分かりやすい授業なのでもっと注目させたい。

・グループワークの人数を３人程度にして、より責任を持って話し合いができる方法もある。

・電子黒板の文字が少し小さいと感じた。

・グループワークをする前に個人で考える時間を持っても良いのではないか。

保健教育相談部
企画研修部
1年部

令和５年度　きこえに関する職員研修会

１．目　的：きこえにくい生徒に対しての授業や日常生活における
　　支援方法を学ぶ

２．日　時：令和５年５月１日（月）午後３時30分～午後４時30分

３．場　所：本校　会議室

４．講　師：秋田県立聴覚支援学校　きこえとことば支援センター職員

５．内　容：きこえに関して困難を要する生徒への支援方法について
・聴覚障害の種類について
・該当生徒について　聞こえ、補聴器、ロジャーの役割
・難聴疑似体験
・きこえの影響
・支援方法
・コミュニケーションのポイント
・高等学校生活における配慮について

６．対象者：本校教員

７．その他：各自クロムブック持参

実際に難聴体験をしてみて初めて、「聞こえにくいだろう」という予想を遥かに上回る、難聴者の聞こえにくさ・苛立ち・疎外感を感じることが出来た。マスクがいかに邪魔なものか、顔を見合わせて会話することの重要さ等を少しではあるが全職員が共通して感じ取れたことが、本研修を実施した意義だったと思う。また、実際にロジャーに触れて、操作を行ったり注意点や疑問点を伺うことが出来たことも大きな収穫であり、職員の不安の軽減に繋げることが出来た。

保健教育相談部
企画研修部

令和５年度　食物アレルギー研修会　実施要項

１．目　的：食物アレルギーに関する理解を深め、その対応について学ぶ

２．日　時：令和５年５月２５日（木）職員会議終了後

３．場　所：本校　会議室

４．内　容：・食物アレルギーについて
・緊急時の対応について
・エピペンの使用方法について

５．対象者：本校教員

Ｒ６．２現在、本校の食物アレルギー所有者は３２名、そのうちエピペン所有者は２名在籍している。その程度は様々であり所属する部活も多様である。各々自己管理はできているようだが、学校管理下の活動中、校内または校外でアレルギー症状を発症した場合、近くにいる職員が迅速に対応できるよう研修会を実施したが、参加者と注意点及びエピペンの使用方法について共有できた。